

第39回「放送文化基金賞」表彰対象について

放送文化基金賞

放送文化基金賞は、過去1年間（平成24年4月～25年3月）の放送の中から選ばれた、優れたテレビ、ラジオ番組や個人・グループに毎年贈られる開かれた伝統ある賞です。39回目を迎えた今回は、全国の民放、NHK、それにプロダクションなどから、全部で251件の応募、推薦がありました。4月、5月の2か月近い厳正な審査の結果、テレビドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメント、それにラジオの4つの番組部門で、それぞれ本賞、優秀賞、番組賞に15本の番組と演技賞や制作賞など個別分野賞5件、さらに個人・グループ部門の放送文化、放送技術5件が決まりました。

今年の実応募番組の傾向としては、＜ドキュメンタリー＞では、震災から2年経った今、生き残った人々の苦悶や大震災の爪跡をテーマとする番組が多くありました。＜ドラマ＞では、震災や死を乗り越えて、生きることをテーマにした番組が多くありました。

受賞番組のうち本賞は、テレビドキュメンタリー番組『NHKスペシャル りんとダウン File.03 原子炉“冷却”の死角』（NHK）、テレビドラマ番組『リーガル・ハイ』（フジテレビジョン、共同テレビジョン）、テレビエンターテインメント番組『NHKスペシャル 釜石の“奇跡” いのちを守る特別授業』（NHK）、ラジオ番組『よみがえる話芸 節談説教』（東海ラジオ放送）に贈られます。

個別分野賞の中では、演技賞が、テレビドラマ番組賞の『最高の離婚』に出演した瑛太さん、尾野真千子さんにそれぞれ贈られます。

また、個人・グループ部門では、放送文化で2件の制作グループ・番組プロジェクト、放送技術で3件の開発グループが受賞します。

受賞番組、受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金が贈られます。

賞金は、番組部門 本賞—80万円、優秀賞—40万円、番組賞—20万円、番組部門の個別分野賞—10万円、個人・グループ部門—30万円です。

贈呈式

放送文化基金賞の贈呈式は、平成25年6月21日(金) 午後4時30分から千代田放送会館ホール（東京都千代田区紀尾井町）で行われます。

第39回「放送文化基金賞」表彰対象

1 番組部門—————15番組、5件

- (1) テレビドキュメンタリー番組……………5番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビドキュメンタリー番組賞—3
- (2) テレビドラマ番組……………4番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビドラマ番組賞—2
- (3) テレビエンターテインメント番組……………3番組
本賞—1 優秀賞—1 テレビエンターテインメント番組賞—1
- (4) ラジオ番組……………3番組
本賞—1 優秀賞—1 ラジオ番組賞—1
- (5) 個別分野賞……………5件
 - 「演技賞」——2件
 - 「脚本賞」——1件
 - 「制作賞」——1件
 - 「特別賞」——1件

2 個人・グループ部門—————5件

- (1) 放送文化……………2件
- (2) 放送技術……………3件

お問い合わせ先 放送文化基金(担当 安部、川副)
東京都渋谷区宇田川町41-1 共同ビル5F
TEL(03)3464-3131
<http://www.hbf.or.jp>

第39回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門	賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績	
番組部門	テレビドキュメンタリー番組	本賞 (80万円)	NHK	NHKスペシャル メルトダウン File.03 原子炉“冷却”の死角
		優秀賞 (40万円)	NHK広島放送局	NHKスペシャル 黒い雨 ～活かされなかった被爆者調査～
		(20万円)	NHK仙台放送局、NHK盛岡放送局	NHKスペシャル シリーズ東日本大震災 追跡 復興予算19兆円
		テレビドキュメンタリー番組賞 (20万円)	NHK福岡放送局、NHK熊本放送局	ETV特集 原田正純 水俣 未来への遺産
	(20万円)	NHK	NHKスペシャル 世界初撮影！深海の超巨大イカ	
	テレビドラマ番組	本賞 (80万円)	フジテレビジョン、共同テレビジョン	リーガル・ハイ
		優秀賞 (40万円)	NHK	テレビ60年記念ドラマ メイドインジャパン
		(20万円)	フジテレビジョン	最高の離婚
		テレビドラマ番組賞 (20万円)	WOWOW	連続ドラマW ヒトリシズカ
	テレビエンターテインメント番組	本賞 (80万円)	NHK	NHKスペシャル 釜石の“奇跡”いのちを守る特別授業
		優秀賞 (40万円)	テレビ朝日	あの名曲を方言で熱唱！ 新春全日本なままりうたトーナメント
		テレビエンターテインメント番組賞 (20万円)	宮崎放送	西米良ご長寿御一行様 平成のお江戸見物ツアー
	ラジオ番組	本賞 (80万円)	東海ラジオ放送	よみがえる話芸 節談説教
		優秀賞 (40万円)	朝日放送	日曜スペシャル 調律師という芸術家 最高の音楽を作る究極のピアノ調律
		ラジオ番組賞 (20万円)	北海道放送	凍えた部屋 ～姉妹の“孤立死”が問うもの～
個別分野	演技賞 (10万円)	瑛太	「最高の離婚」	
	演技賞 (10万円)	尾野真千子	「最高の離婚」	
	脚本賞 (10万円)	古沢良太	「リーガル・ハイ」	
	制作賞 (10万円)	秋田和典	「よみがえる話芸 節談説教」	
	特別賞	原田正純	「原田正純 水俣 未来への遺産」	
個人・グループ部門	放送文化	(30万円)	NHK「宇宙の渚」制作グループ	貴重な映像で地球と宇宙の繋がりを描き出し、新たな地球観・宇宙観を視聴者に提示した
		(30万円)	NHK 東日本大震災 証言プロジェクト	東日本大震災に遭遇した人々の証言を記録、放送・WEB・書籍等、幅広く視聴・検索可能な形態で公開した
	放送技術	(30万円)	位相調光制御対応LED駆動装置開発グループ 代表 小寺 勝馬 (日本テレビ放送網)	位相調光制御対応LED駆動装置の開発およびフラッドライトの実用化
		(30万円)	SDカードスクランブラー開発グループ 代表 保谷 和宏 (フジテレビジョン)	SDカードスクランブラーの開発
		(30万円)	ツインズカム開発グループ 代表 沢田 智 (NHK)	ツインズカムの開発

*番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第39回 放送文化基金賞

「番組部門」

— テレビドキュメンタリー番組 —

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
NHKスペシャル メルtdown File.03 原子炉“冷却”の死 角 平成 25. 3. 10 (日) NHK	ディレクター 鈴木 章雄 赤上 真 野々部一成 演出 谷川 功 記者 横川 浩士 花田 英尋 岡本賢一郎 制作統括 高間 大介 藤川 正浩 中村 直文 キャスター 根元 良弘 出演 紺野 相龍 おかやま はじめ 俵木 藤汰 津村知与支	「人類は原発を制御できるのか」「安全対策は本当に十分なのか」。原子力発電所の安全性をめぐる社会的な論議が広範に続いている。東京電力福島第一原発の事故が、なぜどのように起きたのか。そして、どう事故対応したのか。事故から2年たったにもかかわらず、いまなお謎と課題は残されたままだ。メルtdownを防ぐための“冷却”。全く型が異なる冷却装置を使ってメルtdownへの対応を行った1号機と2号機。現場では2号機への危機感が強かったにもかかわらず、実際の事故の進展は1号機の方が危機的だった。3号機では、冷却装置が止まったあとの最後の切り札「消防車による注水」で膨大な量の水が実は別ルートに漏れていた。検証を続けると、知られざる事実が次々と浮かび上がった。事故は本当に防げなかったのか。事故の教訓はどこまで生かされているのか。巨大な施設での実証実験や証言に基づく再現映像、データに基づくCGを駆使して検証する。メルtdownシリーズの第3作。	放送局として視聴者の知りたいという要求に真正面から取り組んでいる。原発事故の真相がまだほとんど分かっていない、ということを経験した。様々な手法による詳細な検証取材で突いた。公共放送としての役割を果たす番組のひとつ。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
NHKスペシャル 黒い雨 ～活かされなかった 被爆者調査～ 平成 24. 8. 6 (土) NHK広島放送局	ディレクター 松木 秀文 石濱 陵 取材 田尻 大湖 山田 裕規 松本 成至 撮影 佐々倉 大 編集 川神 侑二 音響効果 小野さおり 制作統括 井上 恭介 藤原 和昭 語り 伊東 敏恵 声の出演 坂口 芳貞 関 輝雄	原爆投下直後の広島・長崎で、大量の放射性物質を含む「黒い雨」にあった1万人を超える被爆者のデータが、2011年12月、突然公開された。データは、放射線の人体への影響を科学的に明らかにするためにアメリカの研究機関ABC Cが集め、研究を引き継いだ放射線影響研究所が保管していた。被爆者の協力のもと集められた“命の記録”は、なぜ研究に活かされなかったところか、その存在すら明らかにされなかったのか。データの存在が明らかになったいま、黒い雨の影響を解明しようとする動きが出てきている。データは何を語るのか。見えない放射線の脅威に正面から、どう向き合うのかを問う。	日米両政府が、「黒い雨」による被爆実態のデータを入手しながら、政治的判断からそれらを半世紀余りの長きにわたって封印してきた事実を究明し、残留放射線の影響など引き続く被爆の問題を提示した。今、「フクシマ」の直面している問題が重なって見えてくる。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
NHKスペシャル シリーズ東日本大震災 追跡 復興予算19兆円 平成 24.9.9 (日) NHK仙台放送局 NHK盛岡放送局	制作統括 高山 仁 熊田 安伸 笠間 毅 ディレクター 小林 竜夫 石田 望 池本 端 記者 太田 哲朗 戸田 有紀 鈴木 隆平 野津原 有三 水上 貴裕 橋本 剛 映像取材 勝山 能行 橋本 秀一 編集 中畑 秀一 金田 一成 音響効果 ナレーション 福井 純子 豊原謙二郎 キャスター 鎌田 靖	「復興は進んでいない。お金は一体どこに使われているのか…」被災地から切実な悲鳴が上っていた。被災地復興のためにつぎ込まれる巨額の“復興予算”。増税を前提にして予算化された巨費は一体どのように、どこに流れ、使われているのか。 取材を通してみえてきたのは、「本当に資金を必要としているところにカネが流れていない」実態だった。壊滅的な打撃を受けた医療機関、失業給付もない困窮する自営業者などに対する補助金は、手続きや運用の煩雑さで殆ど利用できない。 “巨額復興マネー”の行方を追い、その実態と全貌を検証した。	被災地以外の地域や事業に復興予算が濫用されている事実を綿密な調査で明らかにし、それを報道する調査報道の意義を示した。
E TV特集 原田正純 水俣 未来への遺産 平成 24.11.4 (日) NHK福岡放送局 NHK熊本放送局	制作統括 宮田 興 岩下 宏之 エグゼクティブ・ディレクター 吉崎 健 取材 田村 圭香 編集 相川 哲男 音響効果 小野 潤二 映像技術 中竹 充 照明 柏原 正広 音声 田島 久幸 田川 雅博 撮影 渡瀬 竜介 語り 上田 早苗 出演 原田 正純	半世紀にわたって水俣病に向き合った医師・原田正純さんが、平成24年6月、急性骨髄性白血病で77歳の生涯を閉じた。原田さんは、熊本大学の大学院生だった時から水俣病にかかわり、常に現場に足を運び水俣病患者を診てきた。昭和37年には、母親の胎盤は毒物を通さないとされていた当時の医学界の常識を覆し「胎児性水俣病」を証明した。原田さんの最後のインタビューやNHKが長年記録してきた映像を交えて水俣病に向き合い続けた医師・原田正純さんの人生と言葉を振り返り、原田さんが問い続けたもの、私達に遺したものを見つめ直した。	公害の原点といわれる水俣病を告発し続けた医師、原田正純氏の死去をきっかけに、改めて水俣病の歴史を追ったものだが、水俣病と向き合い続けたひとりの医師の深みある個人史となっている。
NHKスペシャル 世界初撮影！深海の超巨大イカ 平成 25.1.13 (日) NHK	語り 三宅 民夫 守本 奈実 撮影 河野 英治 杉田 達彦 潜水艇撮影 和田 正志 凶書 博文 音声 土肥 直隆 映像技術 藤野 和也 CG制作 本多 冬人 VF X 倉田 裕史 編集 澤村 宣人 音響効果 笈川 陽一 取材 岡本 浩周 浜崎 照仁 ディレクター 小山 靖弘 プロデューサー 佐々木 元 制作統括 岩崎 弘倫 出田 恵三 菅井 禎亮	古来より船を沈めると恐れられてきた最大18mに及ぶ世界最大の「ダイオウイカ」。しかし、深海で生きた姿を見た者は誰もいない。NHKと国立科学博物館などの国際チームが挑戦。透明ドーム型で340度の視界をもつ最新鋭の潜水艇2隻に、NHKが開発した深海用超高感度カメラを搭載、水深1,000mの深海に潜航する。ダイオウイカを誘い出すため、科学者たちは知恵を絞った数々の作戦を展開する。10年の歳月をかけ地道に調査・準備を進めた末、ついにその姿を捉えた。潜航回数100回、潜航時間400時間に及ぶ海洋科学アドベンチャー番組。	知られざる世界に挑戦し、ダイオウイカの初撮影に成功。遠い未知の世界を目の前に見せるテレビドキュメンタリーの原点とも言える番組。

第39回 放送文化基金賞
「番組部門」
－ テレビドラマ番組 －

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
リーガル・ハイ 平成 24. 4. 17 (火) ～6. 26 (火) 〈全 11 回〉 応募は第 1 回、9 回 フジテレビジョン 共同テレビジョン	脚本 古沢 良太 音楽 林 ゆうき プロデューサー 成河 広明 稲田 秀樹 監督 石川 淳一 城宝 秀則 編成企画 加藤 達也 出演 堺 雅人 新垣 結衣 生瀬 勝久 小池 栄子 ・ 里見浩太朗 ほか	口と性格が悪いが、なぜか憎めない、伝説の敏腕弁護士、古美門研介（堺雅人）と、社会正義の使命に燃え、真面目で融通が利かない新人弁護士、黛真知子（新垣結衣）が、市井の人々のために魑魅魍魎な裁判や争い事に挑む。 ドラマで描かれるのは、「裁判で勝つこと、負けることとはどういうことか？」ということ。誰もが知っているようで、誰もが良く知らない、まさに人生のターニングポイントに直面した時に起こる人間ドラマが舞台となる。 裁判に勝つためなら、依頼人、原告、被告、裁判に関わるすべての人を翻弄することをいとわず、「勝った者が正義」という信念のもとに突き進む主人公。 法廷というステージで、「闘う気持ち」、「あきらめない気持ち」を思い出させる弁護士ドラマ、リーガルコメディ。	正義や価値観について問いかけ、揺さぶりをかけながら、思いがけない問題を浮上させて行くアクロバティックな展開で、見る者を最後まで惹きつける。 古沢良太の完成度の高い脚本と主演の堺雅人のデフォルメした表情とスピード感溢れるセリフによって、特異なキャラクターを造形した演技が新しいドラマの可能性を感じさせる。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
テレビ 60 年記念ドラマ メイドインジャパン 平成 25. 1. 26 (土) ～2. 9 (土) 〈全 3 回〉 応募は第 1 回 NHK	作 井上由美子 音楽 鮎島 邦明 制作統括 高橋 練 演出 黒崎 博 出演 唐沢 寿明 高橋 克実 吉岡 秀隆 國村 隼 大塚 寧々 マイコ 酒井 美紀 刈谷友衣子 平田 満 及川 光博 岸部 一徳 ほか	日本の製造業が軒並み危機を迎える中、巨大電機メーカーが「余命三か月」の倒産の危機に追い込まれた。会社の命運を握るのは「再建チーム」の 7 人。 だが彼らの前に、一人の日本人技術者が立ちはだかる。その男はかつて、この会社をリストラされ壮絶な過去を経ていた。男は、己のリチウム電池技術を武器に、中国の新興企業から世界市場に勝負を挑む。「技術は誰のものか」という争いの中、日中の巨大企業の激突が始まる・・・。 戦後の日本を支えてきた物づくりの意義を見つめ直し、逆境を乗り越ろうとする日本人の姿から「メイドインジャパン」とは何かを描いている。	今の中国経済のエネルギーを視野に入れ、娯楽作でありながら、大いに考えさせられる、非常にタイムリーな企業エンターテインメントに仕上がっている。 スタッフ、脚本家、個性的な俳優陣、この番組に関わった人たちのドラマへの強い意気込みを感じさせる。

テレビドラマ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>最高の離婚</p> <p>平成 25. 1. 10 (木) ~ 3. 21 (木) 〈全 11 回〉 応募は第 1 回、11 回</p> <p>フジテレビジョン</p>	<p>脚本 坂元 裕二 音楽 瀬川 英史 主題歌 桑田 佳祐 プロデュース 清水 一幸 浅野 澄美 若松 央樹 演出 宮本理江子 並木 道子 加藤 裕将 宮脇 亮 出演 瑛太 尾野真千子 真木よう子 綾野 剛 ・ 八千草 薫 ほか</p>	<p>一組の夫婦（瑛太、尾野真千子）の「いつもの痴話喧嘩」からドラマは始まる。お互いの性格、行動を理解できず、常に喧嘩の毎日…ただ、なんとなく別れるまでには至らなかった。それが、ある日、ある出来事を境に「離婚届出してきた」と告げられる夫。そんな元夫婦で今は他人の二人。なのに、なぜか二人はひとつ屋根の下に暮らすハメに…。一方、幸せそうに見えるもう一組の夫婦（真木よう子、綾野剛）には、隠された衝撃の事実が発覚する…。</p> <p>何が結婚で、何が離婚なのか、なんともややこしい迷える二組の男女が、結婚と離婚の狭間で成長していくラブ&ホームコメディ。</p>	<p>セリフ・言葉を大事にした脚本が光る。</p> <p>主演の瑛太と尾野真千子の会話のテンポが心地よく饒舌と思えるセリフが魅力的でさえある。</p> <p>若い男女が共に生きていくことの意味とその可能性を掘り下げた内容の深い作品。</p>
<p>連続ドラマW ヒトリシズカ</p> <p>平成 24. 10. 21 (日) ~11. 25 (日) 〈全 6 回〉 応募は第 1 回、2 回</p> <p>WOWOW</p>	<p>プロデューサー 高嶋 知美 荒川 優美 田中 誠一 監督 平山 秀幸 脚本 青島 武 音楽 安川 午朗 原作 菅田 哲也 出演 夏帆 高橋 一生 村上 淳 新井 浩文 長塚 圭史 松重 豊 温水 洋一 池田 成志 黒沢あすか 二階堂 智 緑 魔子 岸部 一徳 ほか</p>	<p>1996 年 3 月。住宅街のアパートで暴力団員が射殺される事件が発生。地域課の木崎（高橋一生）が駆けつけると先輩の大村（村上淳）が既に現場に入っていた。聞き込みや鑑識の結果から容疑者が絞られ、事件は解決したかのように思われた。しかし、被害者の司法解剖を担当した法医学者から死因となった銃創について疑問があると連絡が入り、木崎は独自に捜査を始める。やがて事件の背後にひとりの少女・静加（夏帆）の影が浮かび上がる…。</p> <p>翻弄される警察は真実にたどり着けるのか？それぞれの事件の謎と、全体を貫き通す大きな秘密が交錯する警察ミステリー。</p>	<p>連続ドラマの特性を活かしたサスペンス溢れる作りが高く評価された。</p> <p>菅田哲也の原作をもとに、平山秀幸監督と充実したキャストとスタッフで、見ごたえのある作品になった。</p>

第39回 放送文化基金賞
「番組部門」
— テレビエンターテインメント番組 —

本賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
NHKスペシャル 釜石の“奇跡” いのちを守る特別授業 平成 24. 9. 1 (土) NHK	アニメ制作 トムス・エンタテインメント 語り 武内 陶子 取材 松本 弥希 阿部 宗平 撮影 加藤 覚 侯野 周作 音声・照明 谷津 肇 CG制作 河合 一成 美術 中川 泰宣 音響効果 小野 さおり 編集 田島 義則 ディレクター 福田 和代 制作統括 中村 直文 出演 片田 敏孝 国分 太一 今井絵里子 熊田 聖亜 カドゥィッチマン つるの剛士 堀 ちえみ 本田 望結 まえだまえだ 首藤奈知子	巨大津波によって多くの命が奪われた東日本大震災。その中で、「釜石の奇跡」と呼ばれた子どもたちがいる。岩手県釜石市釜石小学校 184 人の子どもたち。自分たちの判断と行動で大津波を生き延び、さらに多くの周りの大人たちの命も救っていた。ごく普通の子どもたちのどこに、そのような「力」が潜んでいたのか。子どもたちの証言をもとに、あの日の行動をアニメーションで再現。さらに、親世代、子ども世代のゲストとともに、スタジオで「いのちを守る特別授業」を開催。講師は、釜石市の防災・危機管理アドバイザーとして震災前から釜石の子どもたちに「いのちを守るために大切な3つのこと——想定にとらわれるな、最善をつくせ、真っ先に逃げろ」を繰り返し教えてきた群馬大学の片田敏孝教授。釜石の子どもたちの姿を通して、命を守るために大事な事は何かを学ぶ、防災エンターテインメント。	東日本大震災を生き延びた子どもたちから得た教訓を、アニメーションでの再現や当事者の証言、スタジオでの授業を通して丁寧に伝え、肩ひじ張らずに親子、家族で学べる番組。 震災時に子どもたちがいた場所を示す地図の情報量にも説得力があり、防災の日の放送にふさわしい内容だった。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
あの名曲を方言で熱唱！ 新春全日本なまりうたトーナメント 平成 25. 1. 1 (火) テレビ朝日	ゼネラルプロデューサー 奥田 創史 構成 中野 俊成 演出 大沢 解都 プロデューサー 佐藤 尚子 須藤 勝 三浦 雅登 ディレクター 石 武士 出演 桂 文枝 堂 真理子 瀬川 瑛子 伊集院 光 東 貴博 クリス松村 小森 純	誰もが知る日本の名曲を、出場者が自ら方言に訳し、「なまりうた」として熱唱する大会。日本各地方 12 県の代表者が4つのブロックに分かれて予選を行い、各ブロックの勝者4名が決勝に進出。予選とは別の曲で優勝を争う。審査員は東京近郊出身の芸能人5名で、歌唱力だけでなく、どれだけ方言を使いこなしているかにも重点をおいて審査する。優勝者は、津軽弁で「プレイバック part2」を歌った青森県代表の3児の母。「真っ赤なポルシェ」を「たげあげポルセ」、「プレイバック！」を「もどりへ！」と熱唱し、第1回なまりうたトーナメントの王者に輝いた。	地方に住む出演者が名曲の歌詞を自ら方言に訳すという着想が素晴らしい。高い歌唱力で方言を真正面に押し出して熱唱される各々の「なまりうた」からは、方言の持つ温かさや力強さ、思わず吹き出してしまふような面白さ、そして地域の誇りを感じる。これまでにない独自性をもつ視聴者参加型の音楽番組としても楽しめる。

テレビエンターテインメント番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
西米良ご長寿御一行様 平成のお江戸見物ツアー 平成 24. 12. 24 宮崎放送	プロデューサー 紫安 伸一 平沼 邦子 ディレクター 坂元 伸一 サブディレクター 濱田 紘仁 カメラマン 山本 義一 音声 田上 秀作 ナレーション キートン山田 出演 國吉 暎敏 國吉 治子 椎葉 袈雄 椎葉ハナエ 中武 磨 清家 清明 清家ケサ子	宮崎市内から車で2時間、人口およそ 1200 人の西米良（にしめら）村は、現在 65 歳以上の比率が人口の 41%という超高齢化の村。しかし、ここで暮らすお年寄りたちは「生涯現役元気村」のキヤッチフレーズのもと元気いっぱい暮らしている。番組は、西米良村が主催する、75 歳以上のお年寄りを対象とした 2 泊 3 日の東京旅行ツアーに密着。ツアーには 71 人が参加し、箱根や皇居、靖国神社、横浜中華街などを見学。東京旅行が初めての参加者もいて、西米良と東京のギャップに驚きの連続。涙と笑いの旅ドキュメント。	平均年齢 79 歳の長寿者たちの東京見物に密着しながら、参加者の人間ドラマや村の歴史を絡めて、エンターテインメント番組として巧みに構成されている。西米良のお年寄りたちの旅行を楽しむ姿から、高齢化社会をどう生きるのかというヒントも貰える。

第39回 放送文化基金賞
「番組部門」
— ラジオ番組 —

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
よみがえる話芸 節談説教 平成 24. 5. 27 (日) 東海ラジオ放送	プロデューサー 秋田 和典 北 敏明 ディレクター 松波 宏治 構成 高橋真裕美 ミキサー 杉浦 実 出演 神田 京子 関山 和夫 祖父江佳乃	落語や講談など日本の話芸の源流といわれる「節談説教」。僧侶が仏教の教えをわかりやすく説くために言葉に節(抑揚)をつけ、「節が話になり話が節になる」語りで聴衆をひきつけた。江戸時代から昭和初期まで盛んで、1970年代には小沢昭一氏や永六輔氏らが名古屋の浄土真宗の僧侶・祖父江省念氏の節談説教に注目して一時的に静かなブームを呼ぶ。しかし徐々に衰退し、現在、説教師の数は10名ほどに。 番組は講談師の神田京子さんが進行役をつとめる。昭和の名人と謳われた祖父江氏の高座を存分に聞かせつつ、話芸研究家・関山和夫さんへのインタビューや、近年、節談説教の後継者として活動を始めた祖父江氏の孫・佳乃さんに、祖父の逸話や自身の節談説教への取り組みを聞くことで、節談説教の歴史と実像、魅力に迫る。	講談師が伝統芸能を語ることで説得力があり、アーカイブスの音源を利用した点も、ラジオ文化の継承や地域の芸能を生かしていくことにつながる。 ラジオの良さを生かした、上質な教養、娯楽番組になっている。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概 要	選 考 理 由
日曜スペシャル 調律師という芸術家 最高の音楽を作る究 極のピアノ調律 平成 24. 12. 9 (日) 朝日放送	プロデューサー 道勇 嘉彦 ディレクター 鈴木 崇司 キャスター 堀江 政生 エンジニア 加藤 緑里 ミキサー 山辺 明 出演 菊池 和明 岡原 慎也 大田美佐子	ピアノなどの鍵盤楽器に必要な調律の仕事。世界的なピアニスト達が信頼する調律師・菊池和明氏に密着。調律の基本から、今のピアノより鍵盤が少ない200年前のピアノの調律、さらにプロのピアニスト・岡原慎也氏が目指す音楽に応えるための“究極の調律”までを、音の変化で伝える。 特に室内楽ホールでの“究極の調律”の場面では、調律師とピアニストがピアノの音だけでなく、ホール全体に響く音もコントロールしていることがわかる、高音質の録音に成功した。	インターネットサイマルラジオ“radiko”が導入された今、AM局が高音質を追求して制作した番組。 目に見えない調律という音の世界をスタジオで解説するなど、わかりやすく伝えようとする工夫がある。 ラジオならではの教養番組の新たな可能性を示した。

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概 要	選 考 理 由
<p>凍えた部屋 ～姉妹の“孤立死” が問うもの～</p> <p>平成 24. 5. 26 (土)</p> <p>北海道放送</p>	<p>プロデューサー 花里 康生 構成・取材 岩下 恵子 ・リポート 構成・取材 山崎 裕侍 取材 磯貝 拓 編集・効果 西岡 俊明 ナレーション 赤城 敏正 朗読 渡辺 陽子 加藤 雅章 佐藤 彩</p>	<p>平成 24 年 1 月中旬、札幌市白石区のマンションで姉妹の遺体が見つかった。姉の佐野湖末枝さん（当時 42 歳）と妹の恵さん（当時 40 歳）。姉は死後 1 か月、妹は 1 ～ 2 週間が経過していた。姉は病死、知的障害のある妹は凍死だった。</p> <p>幼くして両親を亡くした姉妹。姉は区役所に生活保護の相談を 3 回もしていたが受け入れられず、役所側はその対応に落ち度はなかったと主張する。相談記録や担当職員の証言、友人や親類のインタビューを通して、全国の一連の孤立死事件の発端となった姉妹の死が本当に「孤立」した死なのか、社会に問いかける。</p>	<p>事実、記録、証言をひとつひとつ積み上げて、現代の社会問題に正面から取り組んでいる。</p> <p>若い記者による取材からは、事件の背景を追い求めるひたむきさが感じられる。</p>

第39回放送文化基金賞

「番組部門」－個別分野－

演技賞

受賞者	対象番組	選考理由等
えい た 瑛 太	最高の離婚 (フジテレビジョン) テレビドラマ番組	神経質で自己中心的で饒舌なオタク男の役作りの完成度が非常に高く、カリカチュアの要素も入れながら、膨大な台詞量のダメ男をリアルに演じてみせた。性格俳優としてもこれからの活躍が期待される。

演技賞

おの まちこ 尾野 真千子	最高の離婚 (フジテレビジョン) テレビドラマ番組	神経質な夫とは対照的な、大雑把でずぼらな性格の若い妻を極めて自然かつ痛快に演じ、シリオコミック(真剣でかつ滑稽)な役をリアルに造形してみせた。どんな役を演じても「はまり役」と思わせる、その人物造形の巧みに大きな才能が感じられる。
------------------	-------------------------------------	--

脚本賞

こさわ りょうた 古沢 良太	リーガル・ハイ (フジテレビジョン) 〔共同テレビジョン〕 テレビドラマ番組	会話の妙、テンポ、主題などが脚本の力で的確に視る者の胸に食い入る。「リーガル・ハイ」が本賞に決したのは脚本の力が大きい。
-------------------	---	--

制作賞

あきた かずのり 秋田 和典	よみがえる話芸 節談説教 (東海ラジオ放送) ラジオ番組	日本の話芸のルーツといわれる「節談説教」の魅力、わかりやすくテンポよく聞かせ、ラジオの良さを生かし、言葉の力、話す力を十分に伝えている。放送局に残る番組アーカイブスもうまく利用している。
-------------------	---	---

特別賞

はらだ まさずみ 原田 正純	E T V特集 原田正純 水俣 未来への遺産 (NHK福岡放送局) (NHK熊本放送局) テレビドキュメンタリー番組	半世紀にわたって水俣病に向き合い、去年、亡くなるまで現場に足を運び、患者の人たちの一番の相談相手であり続けた。公害の原点に立ち、未来に向けた貴重なメッセージを残した。
-------------------	---	---

第39回放送文化基金賞
「個人・グループ部門」
－ 放送文化 －

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK「宇宙の渚」制作グループ	貴重な映像で地球と宇宙の繋がりを描き出し、新たな地球観・宇宙観を視聴者に提示した	新開発の宇宙用超高感度ハイビジョンカメラを国際宇宙ステーションに持ち込み、高度数十～数百kmの「宇宙の渚」で繰り広げられるオーロラ、スプライト（雷雲上空の閃光現象）などの鮮明な映像を世界で初めて撮影。NHKスペシャル『宇宙の渚（全3集）』（2012年4月～5月）を初めとする番組でこれらの映像を放送した。数々の貴重な映像から、地球と宇宙の知られざる濃密な繋がりを描き出し、新たな地球観・宇宙観を視聴者に提示し、テレビの可能性を広げる番組となった。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK 東日本大震災証言プロジェクト	東日本大震災に遭遇した人々の証言を記録、放送・WEB・書籍等、幅広く視聴・検索可能な形態で公開した	東日本大震災に遭遇した人々にその体験を証言してもらい、『あの日わたしは』『証言記録 東日本大震災』などの放送番組として放送するとともに、WEBサイト「東日本大震災アーカイブス」を構築。証言・ニュース映像などを動画コンテンツとして地図や関連記事とともにサイト上に掲載し、多様な見方ができるよう工夫している。学校での授業や地域の防災教室での利用等、減災に向けた取り組みにも活用され、防災を学ぶための専用ページも開設。新たな広がりをもつ記録ジャーナリズムの進むべき道を示している。

第39回放送文化基金賞
「個人・グループ部門」
－ 放送技術 －

受賞者	業績	業績内容・選考理由
位相調光制御対応 LED 駆動装置開発グループ 代表 小寺 勝馬 (日本テレビ放送網)	位相調光制御対応 LED 駆動装置の開発 およびフラッドライ トの実用化	スタジオでは、大きな電力を使用する照明装置の省電力化（LED化）が課題となっている。これまで、LED照明器具を導入する際は、新たに電源線や信号線の布線工事など設備の追加が必要となり、経費の負担が発生していた。そこで、こうした設備の追加を行わず、従来のスタジオで使用している位相調光制御の調光器を使用することで、直接LED照明を電球照明のように調光させる駆動装置を開発した。また、この装置を内蔵したフラッドライトを実用化した。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
SD カードスクラン ブラー開発グループ 代表 保谷 和宏 (フジテレビジョン)	SD カードスクラン ブラーの開発	近年、民生ビデオカメラの性能向上は著しく、取材や記録を行なう放送業務にも使用されている。しかし、記録メディアや符号化方式が一般的に普及したものを採用しており、記録内容へのアクセスが容易なため、メディアを紛失・第三者に拾得された場合、インターネットを利用して情報が簡単に拡散してしまうなど情報管理上のリスクは大きい。このため、民生カメラの記録内容を秘匿する手法と装置の開発を行ない、放送業務用に使用できるよう適合させた。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
ツインズカム開発グ ループ 代表 沢田 智 (NHK)	ツインズカムの開発	「ツインズカム」は、2008年からNHKが開発を進めてきた「水上と水中を連続した画像として、一枚の映像を見せることができるカメラ」である。この映像効果をオリンピックに使用したいというOBS（オリンピック放送制作機構）からの要請を受け、合成面の可動効果、合成精度の向上などの新機能を追加し、小型化した実用機を開発して、2012年、ロンドンオリンピックでのシンクロナイズドスイミングの生中継で、これまででない映像効果を世界に提供し好評を得た。